

## 試験報告書

依頼者 株式会社 マッキンリー  
インテگران株式会社

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木52番1号



検 体 CELA(セラ) (pH6.5 50ppm)

表 題 殺菌効果試験

2010年(平成22年)06月01日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

## 殺菌効果試験

### 1 依頼者

株式会社 マッキンリー  
インテグラン株式会社

### 2 検体

CELA(セラ) (pH6.5 50ppm)

### 3 試験目的

検体の細菌に対する殺菌効果を試験する。

### 4 試験概要

検体にカンピロバクター、レジオネラ又はサルモネラの菌液を接種後(以下「試験液」という。), 室温で保存し, 30秒並びに1及び5分後に試験液中の生菌数を測定した。

なお, あらかじめ予備試験を行い, 生菌数の測定方法について検討した。

### 5 試験結果

結果を表-1に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験により確認した。

表-1 試験液1 mL当たりの生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/mL)			
		開始時*	30秒後	1分後	5分後
カンピロバクター	検 体	$3.2 \times 10^5$	<100	<100	<100
	対 照	$3.2 \times 10^5$	$9.3 \times 10^5$	$1.0 \times 10^6$	$2.0 \times 10^6$
レジオネラ	検 体	$5.6 \times 10^7$	<100	<100	<100
	対 照	$5.6 \times 10^7$	$5.9 \times 10^7$	$5.4 \times 10^7$	$5.3 \times 10^7$
サルモネラ	検 体	$6.3 \times 10^5$	<10	<10	<10
	対 照	$6.3 \times 10^5$	$6.0 \times 10^5$	$5.9 \times 10^5$	$4.6 \times 10^5$

<10及び<100：検出せず

対照：精製水

保存温度：室温

\* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

## 6 試験方法

### 1) 試験菌

- ① *Campylobacter jejuni* subsp. *jejuni* ATCC 33560(カンピロバクター)
- ② *Legionella pneumophila* GIFU 9134(レジオネラ)
- ③ *Salmonella enterica* subsp. *enterica* NBRC 3313(サルモネラ)

### 2) 菌数測定用培地及び培養条件

試験菌①：

5 %馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2(OXOID)，平板塗抹培養法，  
35 °C ± 1 °C，5日間微好気培養

試験菌②：

B-CYE α寒天培地[栄研化学株式会社]，平板塗抹培養法，  
35 °C ± 1 °C，7日間好気培養

試験菌③：

SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]，混釈平板培養法，35 °C ± 1 °C，2日間好気培養

### 3) 試験菌液の調製

試験菌①：

試験菌を5 %馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2で35 °C ± 1 °C，2日間微好気培養  
した後，精製水に浮遊させ，菌数が約 $10^7$ /mLとなるように調製し，試験菌液とした。

試験菌②：

試験菌をB-CYE $\alpha$ 寒天培地で35℃ $\pm$ 1℃、3日間好気培養後、再度B-CYE $\alpha$ 寒天培地で35℃ $\pm$ 1℃、2～3日間好気培養し、菌体を精製水に浮遊させ、菌数が約10<sup>9</sup>/mLとなるように調製し、試験菌液とした。

試験菌③：

試験菌を普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35℃ $\pm$ 1℃、18～24時間好気培養した後、生理食塩水に浮遊させ、菌数が約10<sup>7</sup>/mLとなるように調製し、試験菌液とした。

4) 試験操作

検体10 mLに試験菌液を0.1 mL接種し、試験液とした。室温で保存し、30秒並びに1及び5分後に試験液をSCDLP培地[日本製薬株式会社]で直ちに10倍に希釈し、試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお、対照として、精製水を用いて同様に試験し、開始時についても生菌数を測定した。

以 上